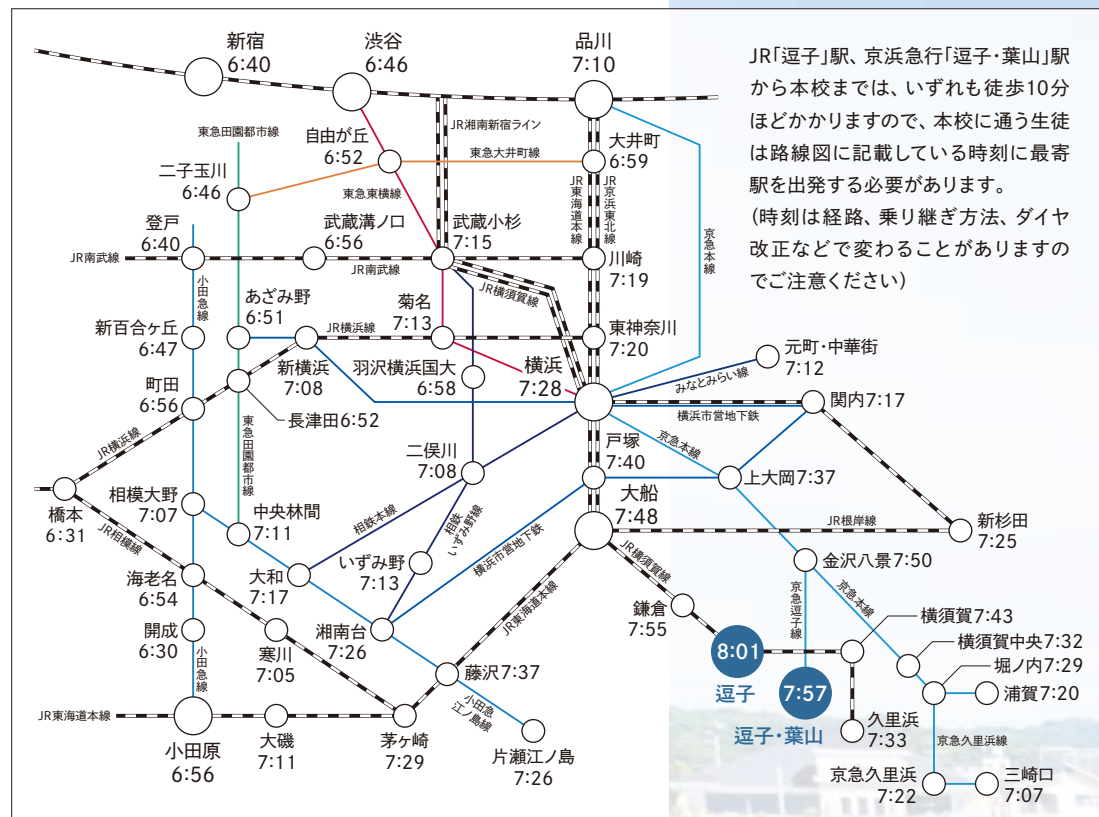




JR横須賀線「逗子」駅徒歩10分 / 京浜急行「逗子・葉山」駅徒歩10分



逗子開成中学校・高等学校
ZUSHI KAISEI Junior & Senior High School

〒249-8510 神奈川県逗子市新宿2丁目5番1号
TEL 046-871-2062 FAX 046-873-8459
<https://www.zushi-kaisei.ac.jp/>



Web Site



facebook



Instagram



YouTube

志、雲より高く

SCHOOL GUIDEBOOK 2027



逗子開成

中学校
高等学校





建学の精神 >>>

開物成務

(物事の理を開き示し、天下の務めを達成する)

ディプロマポリシー >>>

育成を目指す資質・能力に関する方針

逗子開成では、建学の精神「開物成務」のもとに「自主独立の精神を培い、時代を切り拓く人」を育成します。学校生活を通じて以下のような人になるよう育てていきます。

- 知的好奇心を大切にし、主体的に幅広く学び続けることができる人
 - ― 幅広く知識を身につけ、知識を柔軟に活用できる力をつけます。
 - ― 直観や反省的思考を重ね、思考する習慣を身につけます。
- 他者と協同するなかで自己を俯瞰して捉え、他者をかけがえのない存在として受け入れ、学び合うことができる人
 - ― 状況や志向に応じて、常に自己を振り返り、自己を高める目標を定める習慣を身につけます。
 - ― 対話を通じて、他者の価値観を尊重し、さらに新たな価値を見いだす力を身につけます。
- 自然とのよりよい共生、よりよい社会の実現に向けて、世界標準に立って考え行動できる人
 - ― 自分たちの周りの自然環境についての理解を深め、自然環境と人間とのよりよい関係について考察する力を身につけます。
 - ― 異文化を理解し受容できる柔軟性と高いコミュニケーション能力を身につけます。
 - ― 世界が抱える諸問題に関する認識を深め、社会に発信していく市民的素養を身につけます。

カリキュラムポリシー >>>

教育課程の編成やその実施に関する方針

逗子開成では、教科ごとに中1～高3の6か年および各学年についての指導方針を示し、ディプロマポリシーの達成に向けた教育活動を展開します(カリキュラムポリシーの具体的内容についてはここでは省略します)。

アドミッションポリシー >>>

入学者受け入れに関する方針

逗子開成では、学校生活を楽しみ学ぶ意欲をもつ人に入学してもらいたいと考えています。

- 好奇心が旺盛で、何事にも積極的に取り組もうとする意欲や意志をもつ人
- 自ら考え表現することが好きな人



学校長
小和田 亜土

Message

かけがえのない存在として
他者を尊重しながら、
「思考すること」を共に学ぼう。

逗子開成は私立東京開成中学校の分校として1903(明治36)年4月18日に誕生しました。当初、「私立第二開成学校」とよばれたこの学校は、1909年に東京開成中学校から分離独立して、私立逗子開成中学校と改称しました。今や120年以上の歴史を持つ、神奈川県で最古となる私立男子校です。

校名の「開成」は中国の古典『易経』にある「開物成務」に由来します。この言葉は、「人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす」ことを意味しており、本校の建学の精神として現在まで、時期相応の社会的課題に向き合いながら、逗子開成の教職員と生徒に受け継がれてきました。

さて、21世紀に入って世界はますます変化の度合いを強め、物事が複雑に絡み合い、将来予測が困難な状況にあります。何が正解か判断がつきにくい、または正解が一つとは限らない世の中です。私たちの生活空間においてもSNSが私たちにとって不可欠なメディアとなり、ロボットや生成AIなどの先端技術が急速に入り込むことで、生活の質が変容してきました。これらのことは、私たちの社会のあり方や人と人との結びつき・つながり方にも大きな変化をもたらしつつあります。

この予測不能な変化の激しい世の中を生き抜くため、私たちは学校で何を学ぶべきなのでしょう。私は第一に、「考える」ことを学ぶことだと

考えます。「自分の頭で考える」ことは大事です。ただそこにとどまらず、状況に応じて自分は「どのように考えを進めたらよいのか」、「考えることでうなりたいのか」―思考の方法や思考の目的―を突き詰める思考がとても重要だと考えます。考える際に、自分に向けて問いを上手にデザインできることが望ましい。考える習慣が身につくと、他人とは違う角度から世界を捉えられるようになり、新たな価値を見いだす道が拓かれてくると思います。

逗子開成では各教科の授業やさまざまな学校行事、クラブ活動、土曜講座などにおいて、問いを立て課題に取り組む機会がたくさんあります。そしてその際には、周りの人たちと「協同する」経験をとても大切にしています。仲間とともに考え行動するなかで、いかにお互いが協力できるか、互いの意見がぶつかったときに相手の意見をいったん受け入れ、折り合いをつけられるよう努められるか。こうした経験を重ねることで他者を尊重する姿勢をも身につけてもらいたい。実際に逗子開成の生徒は、仲間とかかわりあうなかで自分を磨いています。皆、さまざまにチャレンジし、失敗や成功を繰り返しながら成長しています。

これからの6年間、仲間とかかわりあい学び続けることで、自分を深め成長されることを願っております。



海洋人間学

ものがたり

逗子開成は、文部科学省より教育課程特例校に認定されており、海を活用した教育（海洋人間学）を行っています。

「海と人との関係」を学ぶ教科横断型の授業・経験を通して、生徒たちは何を感じているのか。その体験談を集めました。

海洋人間学は、人文社会科学および自然科学を含む総合的な視点に立った、教科横断型の教育活動です。本校では、海に面した地の利を活かし、ヨット帆走実習や遠泳実習など、海を活動の場とした実践的な教育を行っています。また、大学の先生や研究者の方々から、海洋に関する最先端の研究成果について講義を受けたり、探究的な学習のプロセスを踏まえて海洋に関する課題に取り組むなど、海についての知識や教養を高め、海との共生を考える教育も行っています。この取り組みは、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの連携のもと、発展を重ねてきました。

自然は怖くて難しい
でも、実習が終わると
もっとやりたくなる



ヨット帆走・製作



M.Y.
中学3年



N.E.
中学3年



K.H.
中学3年

※このストーリーは3人の体験談をもとに構成しました



中1の夏の終わり。僕は海洋教育センターの地下艇庫にいる。薄暗い明かりに並ぶ船底。本格的なヨットを見て、静かに驚いた。

今日は初めてのヨット実習だ。「今日はみんな海に出るからね」と先生から渡された操船方法のプリント。「え？」って思いながら、僕は海の上にいる。先生のレクチャーを一生懸命思い出して、帆を動かしてみる。遠くから聞こえる友だちが波に打たれる音。不安を抱えながら舵を操作していると、ふいにヨットが勢よく進み出した。「風をつかむ」感覚に気分良く顔を上げたら、急にヨットが揺れて、僕は冷や汗に濡れた。

逗子開成では、中1の後半に半年かけてヨットをつくる。初めは1枚の板から。組み合わせると、なんだか見たことのある形になっていき、ヨットをつくっている実感が湧いてくる。図工が苦手な僕も精一杯がんばった。できるところは率先して手を動かし、複雑な工程は友だちの真似をしながら手伝う。

塗装まで進むと、もう目に見えてヨットの姿に

なる。この塗装も難しくて、浸水を防ぐ役割もあるから塗り残してはいけないし、でも塗りすぎてもいけなくて。友だちと一緒に笑いながら、助け合いながらつくる。木材を削るのに夢中になって形がくずれそうになり、友だちに止められたことも良い思い出になっている。

中2の春。完成したヨットを前に、僕は砂浜に整列する。安全祈願の係になった僕は、これでもか、とシャンパンをかける。小さな部品にも大切な意味があることを思い出しながら、友だちの歓声と拍手を背中に感じながら。帆を見上げて、「これは僕らがつくったんだぞ」「みんなで作ったんだぞ」って感動した。



ヨット実習は3年間で4回。何もわからず海に浮かぶ中1の9月、進水式に感動する中2の春、少し慣れてきた中2の9月、そしてレースができるまでに上達している中3の9月。まだまだ暑い日は続くけど、9月のヨット実習が終わると季節の変わり目を感じるようになった。

毎回、ヨットに乗る前は緊張はするけれど、海に出れば意外と平気で楽しくて気持ちいい。中3最後のヨット実習が終わった時には、ほっとした気持ちが半分、「これで終わりか」という残念な気持ちが半分だった。

浜から海に出るときは友だちがヨットを運んでくれる。頑張れよ、いってらっしゃい。友だちのヨットを見送るときは、もちろん僕も声をかける。友だちの手が離れる瞬間はわかる。そこからは、僕は一人きりだ。風も波も思い通りに動いてくれない。仲間の大切さと、一人で試行錯誤する難しさ、自然と一体になる心地よさを、一度に感じられるのがヨット実習の魅力だと思う。

ヨット部の友だちは高校生になってもヨットを続けるらしい。僕は、この先の人生でヨットに乗る機会はあるだろうか。もっとヨットや海のことかわかったら、思い通りに操船できたら、もっと気持ちよくなれるんだろうなと想像する。逗子開成だから経験できたこの日々を、僕はいつまでも忘れないだろう。



クラスのみんなが応援してくれるから、
僕も完泳したいです



遠泳実習



K.M.
中学3年



Y.U.
中学3年



I.A.
中学3年

※このストーリーは3人の体験談をもとに構成しました



もちろん入学したときから知っていましたよ。3年生になったら海で泳がなくなっちゃいけないってことは、絶対無理！って思っていました。でもヨットの授業がすごく面白そうで、ヨットにつられて入学した感じです(笑)。

水泳の授業は、泳力に合わせて4グループに分けられます。僕はもちろん泳力が最も低いDクラス。1年生の始めのころはDクラスも人数が多く、「みんな一緒だな」なんて安心しました。

遠泳は「顔上げ平泳ぎ」で泳ぎます。普通の平泳ぎも知らないのに、そんなのできるわけないって思いませんか？体育の授業を休みたいと思ったことは一度や二度ではありません。

「泳げるかも」と感じたきっかけは、3年生の海授業です。体が浮くので、海の方が泳ぎやすいんです。それから、少しずつ長い距離が泳げるようになっていって、まあ平気かなって思えるようになりました。自信というよりも安心ですね。安心しました。みんなと泳げそうだって。

先生方が丁寧に教えてくれたことも、もちろん大きいです。小学生の時にプール教室に参加したことがあって、コーチがめちゃくちゃ怖くて

1回で辞めたんですけど、逗子開成の先生は見た目に反して超優しい。遠泳の前日も、個別指導をしていただきました。当日まで1,500m泳げたことはありませんでしたが、「溺れたら先生が人工呼吸してやるからな」なんて言われたら、絶対に溺れるわけにはいかないですよね。



当日は、「みんなで一緒に泳ぎ切ろう」って励まし合いました。緊張はしていましたが、不安はありませんでした。

遠泳は5人ずつ1組になって泳ぎます。前の列についていって、隣の友だちとは2、3mくらい離れています。無我夢中で手足を動かして、何も考えられなくなって、そうしたら自然と体が動いていました。やがて、タツノオトシゴを見たり、友だちとおしゃべりする余裕も出てきました。

少し遅れると友だちが名前を呼んでくれるんです。「大丈夫か」って。返事をしないとずっと呼ばれ続ける(笑)。力づけられました。

沖に向かって泳いで、ターンして戻ってくるんですけど、葉山港のあたりで江の島が見えるんです。ちょうど泳ぎ疲れてくる所で、あんなに

感動する江の島は、ほかにありません。

折り返すとゴールの旗が見えるようになります。「疲れるから早く泳ごうとしてはいけない」って、わかってるんですけど、急いじゃいます。僕は最後尾で泳いでいて、そうすると泳ぎきった友だちが浜から応援してくれるんです。「あと少し、あと少しだぞ、がんばれ」って。あと少しか、違いなって。旗まで歩く時は、みんな近寄ってきてくれました。僕はどんな顔をしていたんだろう？友だちには感謝しかありません。

プールで練習をしている時に、体育の先生に言ったことがあるんです。「クラスのみんなが応援してくれるから、僕も完泳したいです」と。それを担任の先生が知っていて、「熱いじゃん」と言われて。もう泳ぎ切るしかありません。

完泳の達成感、仲間との絆が深まった、先生や先輩の助けや応援への感謝。感想はいろいろあるのですが、「あきらめなければ、できるようになる」ということが、僕にとっての一番の学びになりました。「何事もチャレンジしてみよう」だったり、「何とかなる」と思えるようになったことが、成長した部分ではないかと思っています。



AIもよく使うけど 自分で調べて、 自分の言葉で考えることが 大切なんです

生徒の知的好奇心を刺激するためには、
学問の面白さや奥深さ、スケールの大きさを感じてもらうことが一番！
本校では、中学1年から中学3年まで探究学習のプロセスを踏みながら、
海洋に関する課題に取り組めます。

「やるからには勝とうぜ。クラス代表になって、学年1位にさ」。開成祭が終わった11月。中2後期の総合学習は、4～5人のチームに分かれて行うディベートだ。テーマは『日本の水族館及び動物園を廃止するべきである。』是か非か。普段から仲の良い友人とチームを組んだ僕は、優勝を目指して作戦を練る。

先生はディベートの流れは説明してくれるけど、やり方は教えてくれない。自分たちで考えろってことね。使い慣れたクロームブックを開く。昨年の先輩のディベート動画を見て気づいたのは、肯定と否定、両方の対策を練らなくてはいけないということだ。どちらの立場になるかは、ディベートの直前に決まる。どちらになっても慌てないように、チームメンバーが肯定と否定に

分かれて、図書館にこもったり、インターネットの海に潜ったり。

クラスで模擬試合を行うといういろいろなことがわかる。自分たちが思いつかなかった視点、立論の矛盾をつく質問、根拠の弱点など。メモをとることはディベートで最も大切だと言える。相手の主張を聞き、短時間で的確な指摘をするためには、手際良くメモをとる技術が欠かせない。

ディベートの優劣は、立論や質問の内容、話し方のマナー、チーム内の役割分担などの点数制で決まる。連携プレーがうまくいかなかったり、白熱してマナー違反のディベートになってしまうチームがあったりする。僕らの弱点は、強気になりすぎてしまうこと。強い言葉や偉そうな態度はご法度だからだ。

クラス予選を勝ち抜き、迎えた3月の準決勝。徳間記念ホールロビーで入場の合図を待つ。ドアの先では、学年全員が僕らのディベートを待っている。ステージ中央で相手チームの代表とクジを引く。肯定側か否定側か。どちらになっても僕らに死角はない。

机に資料を広げ、クロームブックを開き、集中力を高める。さあ、ディベートをはじめよう。



※このストーリーは3人の体験談をもとに構成しました

考える時間、試す時間、 友だちと話し合う時間 全部が楽しい

自ら設定したテーマで研究・発表を行う自主活動グループ「うみけん」。
中学生・高校生14名が所属しており(2025年度)、
休み時間や部活動のない放課後に集まって探究を深めています。
全国大会・校外のセッションで優秀な成績を収める生徒もいます。

「うみけん」には中2から参加しています。もともと海に興味があったということもありますし、せっかく逗子開成にいるんだから海の研究をしたいなと思ったことが理由です。

「うみけん」には担当の先生はいますが、研究内容は生徒が考えます。考えるというか、自由に研究して良いんです。個人で活動している人もいますし、グループで研究する人たちもいます。途中で研究テーマを変えることもよくあります。海に関することなら何でもあり、それが「うみけん」です。

自分がやりたい実験などを、自分のペースで進めることは、とても面白いです。組み立てた実験装置がうまく動かなかったり、もっと予算が使えたら…なんて思うこともあります。試行錯誤して答えを見つける面白さがあります。

研究内容は学会で発表します。年3～4回参加するのですが、このためのプレゼン資料をつくることも活動の大きな柱です。

学会では他校の中高生、大学生や院生、大学教授、企業や研究機関に勤めている方々とポスターセッションを通じて交流することができます。ポスターの前にいると緊張しますし、きちんと伝わっているか不安になります。熱心に聞いてもらえて質問を受けると、嬉しい反面、自分の研究の浅さに悔しさを覚えることも少なくありません。

いろんな会場で同じ方と会うことがあり、専門家の方々と知り合えることも嬉しいです。「前回の学会で指摘された課題を改善してきたので、もう一度プレゼンを聞いてください」、なんて気合いも入ります。皆さんのプレゼンを聞いたり、



※このストーリーは3人の体験談をもとに構成しました

企業ブースを見て回ったりすると、勉強になると同時に、自分の研究につながるアイデアをもらえます。僕は「波」をテーマに研究しているのですが、やっぱり波に敏感になりますね。世の中の見方がちょっと変わった気がします。

先輩は「深層海流と地球温暖化の関係」について研究しています。深層海流は、「うみけん」の伝統的なテーマで、歴代の先輩方がさまざまな視点で研究に取り組んでいます。

なんか、「うみけん」の宣伝っぽい内容になってしまって申し訳ありません。でも、せっかくの機会なのでもう少しアピールを。

海に興味のある皆さん、「うみけん」は中1から入れます。自分の研究したいことを、実験して、失敗して、意見を出し合って改良して、データを集める。先輩方は親切にアドバイスしてくれます。志高いキミを、「うみけん」は待っています。

海洋学のテーマ

『海に関する土曜講座』を企画する 中学1年

4～5名ずつのグループに分かれて土曜講座を企画し、広告ポスターを作成します。他の生徒が興味を持つテーマは何か、50分の講座時間をどのように使うかを考え、図書館・インターネット等を通じた文献調査やフィールドワークを実践しながら探究活動のプロセスを学びます。

『日本の水族館及び動物園を廃止するべきである。』是か非か 中学2年

肯定側・否定側に分かれてグループ討論(ディベート)を行います。各々の論を補強する資料の収集や論理的な思考力、建設的に議論をする姿勢を学ぶことはもとより、物事を多角的に見る視点、肯定・否定ともに説得力のある意見があることを体感します。

『理想の水族館』を企画する 中学3年

中1から学んできた探究学習のプロセス、中2で発見した海洋の課題などを踏まえ、個人探究に取り組めます。テーマは『理想の水族館』。開成祭(文化祭)でポスター発表を行います。



EMERGENCY DRILL

いざという時に慌てないために、普段からリアルに備えておこう

防災教育

いつ起こるかわからない災害。
かけがえのない命だからこそ、他人任せにはせず、
「自分の命は自分で守る」意識を持つことが大切です。
そのために必要な正しい知識と適切な判断力を、
海洋人間学やさまざまな行事・訓練を通して実践的に身につけていきます。



TSキャンプ Team Synergy Camp 中学2年 3日間

TSキャンプは、協働をテーマとしたアクティビティと防災体験プログラムに取り組む3日間の防災訓練です。防災体験プログラムでは、体育館で1泊の避難所生活を体験します。被災時の行動・生活についてさまざまな気づきを得るとともに、災害から身を守る方法や備えを考えるきっかけとなっています。



災害対策の専門家による講演や東日本大震災の被災者の方の実体験を聴きます。



防災食を実食。調理方法や味、食感、温度などを確認する貴重な機会です。



避難所生活を疑似体験。役割に分かれて生徒自身が避難所を運営します。



避難所では大勢の方と集団で生活します。適切なルールを実体験から考えます。



段ボールでパーティションを作ります。周囲を気遣いながら自分のスペースを確保します。



寝心地はどうか？事前に体験しておく、実際に被災した時にいくらが落ち着けるようになるでしょう。

津波避難訓練 全校生徒

「首都直下地震が発生、8分後に最大波高10.2mの津波が来る」「日本近海で地震が発生し、3分後に津波注意報、8分後に大津波警報が発令される」など、想定パターンを毎年変えながら訓練を行っています。逗子市防災課の職員の方にもご協力いただいています。



屋上には防災倉庫が設置されており、2,000名・3日分の飲食物と簡易毛布を備蓄しています。



垂直避難

安全確保のスピードが求められる場合は、逗子市の「津波避難ビル」に指定されている本校校舎3階・屋上に避難します。
例年の訓練での垂直避難完了は7分30秒です。

水平避難

より高い危険性が見込まれる場合は、披露山公園(標高92.5m)に避難します。
例年の訓練での水平避難完了は26分です。



3ステージ制・クラス編成	→ 13ページ
教育カリキュラムの特色	→ 13ページ
学習の手引き	→ 14ページ
各教科の特長	→ 15ページ
逗子開成の理数教育	→ 17ページ
総合学習「人間学」	→ 18ページ
進学指導プログラム	→ 19ページ
国際交流	→ 21ページ
土曜講座	→ 23ページ
情操教育	→ 24ページ
海と空と青春	
逗子開成で青に染まる思い出を作ろう	
施設・キャンパス紹介	→ 25ページ
クラブ活動	→ 27ページ
年間行事	→ 29ページ
生徒会	→ 30ページ
学校概要	→ 31ページ
大学合格実績	→ 32ページ
入試情報	→ 33ページ
DATA INFORMATION	→ 34ページ

学び続ける力が 身につく 逗子開成の教育

教科教育の柱は、授業と家庭学習です

学びへの意欲を高める授業

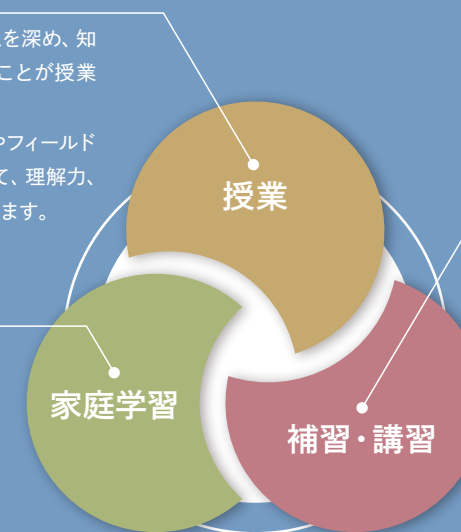
知識の習得を基本にしながら、生徒自らが考えを深め、知識や発想を柔軟に活用できる力を身につけることが授業の目標です。

講義形式の学習だけでなく、グループワークやフィールドワーク、探究・発表などの体験型の学びを通じて、理解力、思考力、表現力等の総合的な学力を養っていきます。

学びを確かなものにする家庭学習

授業で学んだ内容をしっかりと定着させるために、逗子開成では、家庭で学び直す家庭学習をととても大切に考えています。

生徒たちが自律的・自発的に家庭学習に取り組めるよう『学習の手引き(14ページ)』を配付し、中学生のうちに「自学自習」の習慣を確立することを目指します。



授業と家庭学習の両輪を機能させ、学力向上を図ることが望ましいのですが、生徒によって習得状況に差が生まれることがあります。このため、長期の休みや定期試験後に基礎学力の定着を目的とした「補習」を実施しています。
また、高校2・3年生では、大学入試対策を意識した「講習(希望者対象)」が行われます。講習は、通年で実施されるものと長期の休みに実施されるものがあり、他学年でも必要に応じて実施しています。

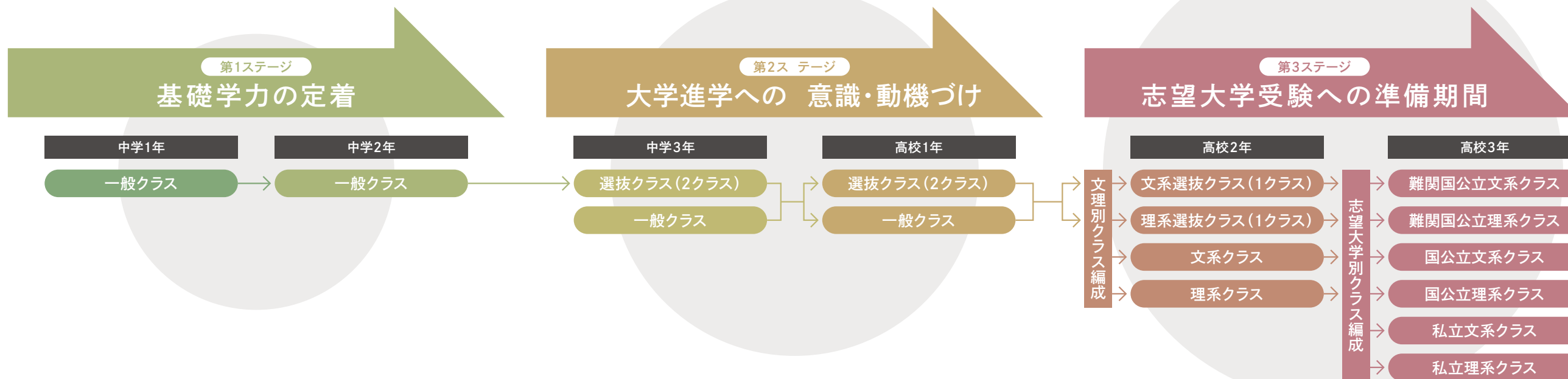


01

学び続ける力が
身につく
逗子開成の教育

3段階のステージで 志望大学を目指す

中高一貫教育の特性を活かし、6年間で3段階のステージに分けた学習プログラムを展開しています。中1・中2を「基礎学力の定着」、中3・高1を「大学進学への意識・動機づけ」、高2・高3を「志望大学受験への準備期間」と位置づけ、一人ひとりの学力を伸ばします。



教育カリキュラムの特色

■クラス定員

中1では1クラス35名程度、中2以降は1クラス40名前後で編成します。

■英数国の時間を十分に確保 中学

英語・数学・国語の基礎学力の定着を徹底するため、3教科の授業時間を多く配しています。

さらに、この3教科は中学の学習内容を中学2年次までに「先取り」で終え、高校3年次で大学入試対策の時間を十分に取れるようにしています。

■基礎学力以外の教科も充実 中学・高校

体育、芸術、技術・家庭、情報、道徳、特別活動などで、独自の体験プログラムを実施しています。

■選抜クラス 中学・高校

中3～高2の成績上位者は選抜クラスに所属します。授業進度は一般クラスと変わりませんが、内容をより深めるとともに演習を取り入れ学力の向上を目指します。クラスは年度ごとに新しく編成されます。

■理解を深める達成度別授業 中学・高校

中3～高2の一般クラスと高3の特定教科で達成度別授業を実施しています。

達成度別授業を実施している教科

中3	英語・数学		高1	英語・数学・古典	
高2	文系	英語・数学	高3	文系	英語・数学
	理系	英語・数学		理系	英語・数学

■志望に合わせた科目選択 高校

高2・高3では、生徒の志望に合わせた科目選択が可能です。

■大学入試対策の演習授業 高校

高3では、志望大学ごとのクラス編成となり、大学入試に向けた演習中心の授業を展開します。

学習の手引き

主体的な学びを確立させる

「自立」と「自律」を学ぶために、中学生全員に本校オリジナルのスケジュール帳『学習の手引き』を配付しています。日々の予定や学習計画を書き込むスケジュール管理のページ他に、教科ごとの勉強の進め方やノートの取り方など、学習法のポイントもわかりやすく解説しています。



まずは部活動や行事、プライベートの予定などを記録・計画することを習慣化します。そして、すでに終えた学習を客観的に振り返ることで、何をすべきか自分で考える力がついていきます。



日々の学習計画や実践を記録。試験目標や反省を書き込むページです。教員からのアドバイスや励ましのコメントも記入されます。

02

学び続ける力が
身につく
逗子開成の教育

生徒の「面白い!」「もっと学びたい」を裏切らない
飽きさせない授業を心がけています

各教科の特長

6年後に高度な目標を実現させる学力を身につけるためには、学習に対する積極的な姿勢、前向きな態度が欠かせません。各教科とも工夫を凝らし、勉強の楽しさ・面白さを感じさせ、生徒の興味関心を引き出す授業を展開しています。

国語

言葉についての知識を習得しながら、現代文・古文・漢文の良質な文章を論理的に「読み解く」こと、深く「味わう」こと、そこから「思考し、表現する」ことを教育活動の中心に据えています。

■百人一首大会

古典学習の導入として暗唱し、その豊かな世界に触れます。中1の3月にはクラス対抗で百人一首大会を開催します。

■漢字検定を全員が受検

中1から学んできた漢字学習の集大成と位置づけ、中3もしくは高1時に漢字検定の準2級を受検します。



英語

「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能を身につけることを目標に、中3前期までに中学履修内容を終えます。高2前期で高校履修内容を終え、残り1年半で大学入試向けの実践的な学習を行います。

■英会話・英語表現

ネイティブ教員による授業では、英語を文単位で聞き取る力とネイティブ教員からの問いかけに応答する力だけでなく、添削指導を受けながら長い英文を正確に書く力を鍛えます。

■課外活動 ESS

放課後、担当のネイティブ教員の指導を受けながら、英字新聞作成、ディベート大会に向けてのトレーニング、パブリックスピーチの練習、謎解きゲームなど、希望者は英語を使ったさまざまな活動に参加できます。

数学

数学的思考力を用いて、他者と協働して問題を解決しようとする姿勢を大切にしています。将来起こりうるさまざまな問題に対し、積極的に向き合える人間を育成します。

■特習数学

中1・2では週1回、特習数学という演習の授業があります。1クラスに2名の教員がつき、時間内に一定量の問題を解ききれなければ、放課後の指名補習で再チャレンジするシステムとなっています。

■数学ジュニアオリンピック、数学オリンピックに挑戦

中1～高2の生徒に、数学ジュニアオリンピック、数学オリンピックの参加を積極的に呼びかけています。予選会への参加費用は学校が半額を補助し、土曜講座では「数学ジュニアオリンピックに挑戦」「数学オリンピックに挑戦」という講座を開講し、参加を後押ししています。

社会

6年間の社会科での学びを通して、日本や世界のさまざまな事象を多面的・多角的に捉え、自らの考えを論理的・批判的に考察し、国際社会に生きる一員として必要な自覚と資質を持つ生徒を育てます。

■地理新聞

中1では、世界の国々から1つを選び、自然や産業、スポーツや文化などの情報を自分で調べ集めて、その国の特徴、問題点や課題について新聞にまとめて発表します。

■創作活動

中3～高2では、夏休みを利用して、言語化能力および論理的思考力の育成を目的とした、人権や税、民俗学、歴史学などに関する作文や論文作成を行います。



理科

豊富な実験や観察を通じて、中2までに中学範囲の物理・化学・生物・地学の4分野を修了します。中3から高校の内容へと移行し、自然の事物・現象の根本理解と徹底した演習により、大学入試に対応できる力を養います。

■実験・観察

「本物に触れる」体験を重視することで、自然科学への知的好奇心を引き出し、科学的に探究するために必要な資質や能力を育成します。

■100分授業

授業時間を「45分+10分+45分」の計100分として活用。まとまった時間を確保することで、専門性の高い実験や大学入試に向けた問題演習など、充実した学びを展開します。



芸術

表現するために必要な知識・技術を身につけるだけでなく、音楽はその美しさを味わい、美術は創造性を発揮することで、芸術への親しみと豊かな情操を培います。

■邦楽鑑賞教室

日本に古来から存在する「邦楽」について学ぶ機会を設けています。出演者の方々には年に一度、逗子開成にお集まりいただき、すばらしい演奏を披露していただいています。

■表現の幅

中1のアールブリュット、中2の針金彫刻、中3の抽象画など、各学年で抽象表現に取り組む機会があります。中3になると多くの生徒が抽象のよさを味わえるようになります。



情報

情報の授業を通じて、高度情報化社会を生き抜く術、問題解決能力を身につけます。また、現代社会に必須のプレゼンテーションやプログラミング能力を養います。

■プレゼンテーション実習

問題の発見・解決に向けて得られた情報を、情報技術によって効果的にまとめ、実習を通じて他者に自身の考えを「伝わるように伝える」力を養います。

■プログラミング実習

プログラミングの仕組みや性質、それを支えているアルゴリズムを学び、実習を通じて物事を順序だてて考えること、論理的思考力を養います。



保健体育

基礎体力の養成と各種の運動を通じて、自己の能力と技術の向上を図ることを目標としています。加えて各運動の特質を理解して、安全性・自主性・協調性を身につけると共に心身の健全な育成を図ります。

■遠泳実習

中3の生徒は全員、逗子湾で約1,500mの遠泳実習に挑戦します。中学入学時には泳げなかった生徒も、プールや海での授業を経て、遠泳実習に必要な泳力を身につけて7月の遠泳実習に挑みます。

■心肺蘇生法

保健の授業では、災害や防災についても学びます。心肺蘇生法を身につけ、実践できる取り組みも行っています。日赤ガイドラインに準拠し、CPRマネキン、AEDトレーナーを実際に使用しての授業が展開されます。

技術・家庭

技術・家庭では、その教育活動を通じて、自立して生きていくための知識と技術、そして、それらを日常生活に活かす知恵を身につけます。

■技術分野

基礎的な知識と実生活を関連付け、想像すること、完成させることの楽しさを体験。特にヨット製作実習は、その過程から個人の責任と協働の重要性を学びます。

■家庭分野

中学では基礎的な分野を学び、高1では和洋中華料理や和洋菓子の調理実習、さらには住宅ローンや不動産広告の見方など、自活できる力を身につけます。



Chromebook

本校独自のポリシーを適用し、学習に特化した仕様にカスタマイズしたChromebookを、1人1台端末として導入しています。紙とペンによる従来の学習スタイルを大切にしながらも、「Gonzui-Portal(ご家庭とのコミュニケーションサイト)」をはじめ、さまざまなICTツールを利用して学習の質を高めています。課題の閲覧・作成・提出のほか、クラス・教科・諸活動といったグループ・チーム単位で利用できるClassroom機能や、Meet機能による双方向オンライン授業など、Chromebookの特性を校内外で活用しています。



各教科の特長PICK UP!

逗子開成の理数教育

実験、体験、ものづくり！ 創造力が動き出す体験がココにある！



理系のクラブが4つ！

部員70～80名の物理化学部は
数多くの受賞歴があります

逗子開成には「コンピュータ部」「生物部」「電気部」「物理化学部」の4つの理系クラブがあります。なかでも物理化学部は毎年多くの部員が集まる人気の部活。自然研究、ロボコン、理科工作、物理化学の4班に分かれて活動していて、外部コンテストや研究発表会に出場しています。



理科棟が独立！

化学、物理、生物それぞれに
最適な実験設備が整っています

教室棟から独立した理科棟には、化学実験室・物理実験室・生物実験室の3教室があり、実験に集中できる学習環境を実現しています。2階にあるサイエンスホールは約100名を収容でき、講義型の授業のほか、講演会や発表会などにも利用されています。



製鉄にチャレンジ！

日本古来の製鉄法「たたら製鉄」で
ペーパーナイフを作ろう

土曜の校舎に響く刀鍛冶の音。希望参加の土曜講座(➡23ページ)では、「たたら製鉄」の講座を開講しており、製錬(砂鉄を熱して鉄を取り出す)、研磨、鍛錬を体験できます。土曜講座では他にも「青銅鏡を作ろう」「七宝焼き」などのものづくり講座を多数開講しています。



自主活動で深めよう！

「うみけん」「MOANA」「数学同好会」など
さまざまな自主活動があります

海を研究の舞台とする「うみけん」、環境問題対策に取り組む「MOANA」、数学が好きな生徒が集まって研究する「数学同好会」など、自分の興味を追求するグループが盛んに活動しています。

03

学び続ける力が
身につく
逗子開成の教育

広い視野、好奇心、課題解決スキルをもって
“今はまだ答えのない問い”に挑戦する人になろう

総合学習「人間学」

将来も自ら学び続ける人になるために。その礎をつくる探究プログラムが、逗子開成の総合学習「人間学」です。問いを立て、情報を収集し、整理・分析し、結果にまとめて考察し、表現するという探究学習を通じて、人生で岐路や課題に直面したとき、自分で考え、自分で決める力を培っていきます。

中学 探究学習のプロセスを学ぶ ➡09ページもご覧ください

中学1年 多角的な視点を養う

探究学習入門／『海に関する土曜講座』を企画する

中学2年 意見を言う力を高める

災害について探究し、開成祭でポスター発表／
ディベート『日本の水族館及び動物園を廃止するべきである。』は是非か

中学3年 企画し、創り出す

「理想の水族館」を企画し、開成祭でポスター発表／
デザイン思考を学ぶ

中学では、探究学習のプロセスを踏みながら、探究の基礎を学びます。本校の特徴である海洋教育や防災教育に関するテーマに触れながら、グループ探究、フィールドワーク、ポスター発表、ディベート、プレゼンテーション等に取り組みます。中3後期には、外部から講師を招いてデザイン思考も学びます。



高校 個人探究で実践する

高校1年 問いを立て、探究する

中学では与えられたテーマ・課題をもとに探究活動を行いますが、高1からは各自で探究課題を設定し、自分自身で探究を深めます。探究の成果をポスターにまとめ、学年末に学年発表会を行います。

高校2年 集大成のアジア研究旅行 ➡21ページもご覧ください

5コース選択制の研究旅行と、その事前学習・事後学習に取り組みます。それぞれの土地で生きる人々と触れ合う経験が視野を広げ、問題意識と課題解決について思考を深める契機となっています。旅行後は各自、「動画制作」と「探究レポート」をまとめ、成果発表会も行われます。





04 学び続ける力が
身につく
返子開成の教育

自身の将来の生き方に責任と主体性を持ち、
自分事として進路・進学先を決められる人を育てます

進学指導プログラム

POINT 1 成功体験を積み重ねて自己肯定感を育み、 モチベーションを高める

将来になりたい職業、学びたい学問、実現させたい未来。進路選択は、自分の未来を自分で拓くことでもあります。高い志を持って進路を選ぶように、普段の授業や海洋教育、土曜講座、クラブ活動など、学校生活のさまざまな場面を捉えて、成功体験を積み重ね、自己肯定感を育みます。

POINT 2 教科・学年・進学指導部が、一体となって全力を注ぐ

教科・学年・進学指導部は、生徒たちの進路について常に緊密な連携をとっています。これにより、いち早く有益な情報を生徒たちに届けることができます。

POINT 3 すべての教科をバランスよく学習し、 難関国公立大進学を目指す

難関国公立大学に合格するには、すべての教科をバランスよく学習することが肝心です。そこで、6年間というスパンを3つのステージに分け、段階的な学力向上と意識付けをねらいます。

POINT 4 日々の授業から大学入試を意識し、 質の高い授業を展開

授業時間数を確保するのが難しいなか、教員たちは教える内容をよく検討し、精選して授業に臨んでいます。限られた時間のなかでは、合理的かつ質の高い授業展開が、志望大学合格への近道となります。

外部模試の結果分析 基礎をはかる試験の実施 綿密な教材の作成

POINT 5 生徒一人ひとりの成長を信じ、励まし続ける

これから生きていくなかで、挑戦する勇氣と強い精神力は必要不可欠なものです。「受験」というひとつの試練においてそれを育むことができれば——返子開成は、生徒たち一人ひとりを信じ、励ますことが何よりも大切なことだと考えています。



中3から本格的な進学指導がスタート

現役で難関国公立大学をはじめとする志望校に合格できるよう、中3から本格的に進学指導を開始。生徒の意識調査にはじまり、大学入試のその日まで、教員が一丸となって徹底した進学指導を行います。

中学1年・中学2年

基礎学力の定着
+
『学習の手引き』を活用した
学習習慣の定着

中学3年・高校1年

大学進学への
意識・動機づけ

- キャリア意識講座
- 自己分析・適職発見診断
- 東大キャンパスツアー
- 医学部希望者対象説明会
- 進路講演会
- 文系・理系コース分け説明会
- 学問系統別説明会
- 合格者報告会

高校2年・高校3年

志望大学受験への
準備期間

- 進学フォーラム
- 医学部希望者対象説明会
- 進路講演会
- 国公立・私立コース分け説明会
- 合格者報告会
- 進学説明会
- 難関大学入試講演会
- 夏休み受験対策特別講座
- 大学入学共通テスト出願説明会
- 冬期直前特別講座

進路意識に火を灯す卒業生の言葉

多くの卒業生が後輩の進路選択をフォローしてくれています。

高1希望者を対象とする「東大キャンパスツアー」は、本校OBが東京大学本郷キャンパスをガイド。キャンパス紹介だけでなく、受験や進路選択、大学生活のことなどを語り合います。

高2希望者が参加する「進学フォーラム」では、毎年数名の大学生が自身の受験勉強生活や効果的な勉強法などを熱く解説してくれます。

在校生の顔が一気に引き締まるガイダンスが、3月に行われる「合格者報告会」です。第一志望を勝ち取った卒業生が来校し、高1・高2に向けて自身の経験を語ります。受験や進路選択をぐんと身近なものにしてくれるようで、「次は自分の番」と熱心に耳を傾ける生徒たちの姿が見られます。



進路を固める目的別講演会・説明会

「進路講演会(高1・高2)」、「医学部希望者対象説明会(高1・高2)」、「大学受験説明会(高3)」、「難関大学入試講演会(高3)」のように、対象を明確にした目的別講演会・説明会を開催しています。

進路・進学先の情報を得る際には、「自分が聴きたいから参加している」という意識を持つことが大切です。ガイダンスの内容をあらかじめ絞り込むことで、生徒がどのガイダンスに参加したら良いか判断しやすくなります。

一方、大学・学部を幅広く知る段階である高1の夏休み前には、「学問系統別説明会」を実施。生徒全員が一通りの学部系統を知る説明会です。学部間の違いや特徴を学んだうえで夏休みのオープンキャンパスに参加することで、より有益な時間を過ごすことができます。



進学の手引き

中3～高3の生徒全員に配付している本校オリジナルのデータブックです。直近の卒業生のデータ(共通テストの結果、模試の成績と合格大学の一覧など)のほか、合格体験記、進学指導部による入試総括など、進学情報満載の約100ページの冊子となっています。





05

学び続ける力が
身につく
返子開成の教育

さまざまな出会いが人生観を変える
中高生の今だから世界を見に行こう！

国際交流

世界に出て、さまざまな文化・宗教・言語をもった人たちと触れ合い、どのように共生しているかを感じてみましょう。返子開成の国際交流プログラムは、英語力の向上を目指すだけのものではありません。幅広い視野を身につけ、ひとまわり大きな人間へと成長する一歩ともなります。



生徒全員が6年間で2回の海外研修に参加！

■ニュージーランド研修旅行 中3全員参加

ニュージーランドの姉妹校 Rangitoto Collegeでの学校生活や、同校生徒宅でのホームステイ、自然豊かな地域でのファームステイを体験します。英語で意思疎通を図り、文化や価値観の違いを理解しながら互いのよさを見つめます。自身の英語力と向き合い、異文化に触れることで、精神面での成長が感じられるだけでなく、将来の進路を考えるきっかけにもなります。



■アジア研究旅行 高2全員参加

オーストラリア・韓国・ベトナム・マレーシア・沖縄の5コースから選択して6日間の研究旅行を行います。アジア3か国では、ホームステイ体験や現地校との交流を通して、同じ英語を学ぶ高校生たちと触れ合います。沖縄では、民泊体験や人々との交流から海や平和について学びます。コースごとに事前学習を行い、旅行後は各自、「動画制作」と「探究レポート」をまとめ、成果発表会も行われます。



英語圏以外の世界との交流

■グローバルビレッジ 高1全員参加

高校入学直後に行うグローバルビレッジでは、英語を母語としない日本への留学生と共にさまざまなアクティビティに臨みます。仲間と知恵を出し合い、学習や将来に関するグループ討論・発表を通して、高校生としての自覚を高めます。



多様な文化と触れ合う 希望者参加型のプログラム

海外プログラム

■カナダ・ヴィクトリア研修 中2～高1希望者

ホームステイをしながら、ヴィクトリアダウンタウンにある語学学校で、英語学習をしながら現地の学生との交流などのさまざまな活動に参加します。1週間を通して、異文化理解や英語力の向上を目指します。

■アメリカ・サンディエゴ研修 中2～高1希望者

ホームステイや現地の学生たちとの交流を通し、アメリカ文化を体験しながら英語を学びます。大学やその他の施設を訪問し、将来について考えるきっかけとなります。

海外留学制度

■海外長期留学(10ヶ月) 高1希望者

高1の9月から高2の6月までの期間で、留学先と留学支援業者は希望者が選択します。多くの場合、現地の一般家庭にホームステイをしながら、その地域にある高校に通います。現地校での単位が認められるので、帰国後は元の学年に復学することができます。

■ニュージーランド短期留学(2ヶ月半) 高1～高2希望者

オークランド市内にある公立高校への5月から7月までの2ヶ月半の短期留学制度です。ホームステイをしながら高校に通い、現地の学生と一緒に授業を受けて学校生活を送ります。

国内プログラム

■ICEP 中2～中3希望者

ICEPは、返子開成の教室内で行う、異文化と英語実践スキルを学ぶプログラムです。少人数のグループには、ネイティブスピーカーと日本留学中の学生がつきます。中2と中3を対象に、夏休みに実施されます。
※ICEP=International Cultures in English Program

■English Camp 中3～高2希望者

ネイティブスピーカーとともに、英語だけを使ったさまざまなアクティビティに取り組む2泊3日のプログラムです。自然に囲まれた環境で英語学習に集中できます。

■模擬国連 中2～高2希望者

毎年11月に開催され、全国から集結した約160名の高校生が熱い議論を交わす全日本高校模擬国連大会出場を目指します。各校主催の模擬国連大会や校内会議への参加を通し、日々研鑽に励みます。

海外大学進学セミナー

年に2回、中3～高3を対象に、海外大学進学に向けた説明会を開催しています。生徒だけでなく保護者の方にも、情報収集の場としてご利用いただいています。

06

学び続ける力が
身につく
返子開成の教育

知的好奇心を刺激する100以上の講座！
学びたいこと、自分で選ぼう！

土曜講座

犬との暮らしについて

土曜講座は、中1～高3までの希望制講座です。生徒は自分の興味・関心や計画と照らし合わせ、100以上の講座から受講講座をいくつでも選択できます。開講講座のテーマは多岐にわたっているので、あらゆる生徒の知的好奇心を満たすことができます。

■土曜講座の例 ※外部の方や保護者の協力を得ているものもあるため毎年変わります

- 数学オリンピックに挑戦！
- うみけん活動体験
- ドローン体験合宿
- 物理実験～放射線の不思議
- 海洋物理プロジェクト入門
- プロジェクションマッピング体験
- 探究型理科実験
- たたら製鉄体験
- 実践 心肺蘇生法
- レザークラフト
- データサイエンスのためのプログラミング言語R
- 犬との暮らしについて
- 陶芸体験
- 保育士さんを手伝おう
- 歌留多で遊ぼう
- 数学パズル塾
- 素朴な集合論ゼミ
- 衆議院へ行こう
- 劇団四季「バリのアメリカ人」を見に行こう
- こころとからだのための演劇ワークショップ
- 博物館へ行こう
- シンクタンクから～銀行業界の現状と取り組み
- バックパッカーが見た世界遺産
- 水中ドローン調査計画
- 国境なき医師団の活動を知る
- 模擬国連体験講座
- 深海掘削船「ちきゅう」の最新成果
- 大人は知らない税金教室
- 珈琲講座
- 地球の形の測り方
- 返子活性化プロジェクト
- 湘南ハイキングクラブ
- 三浦半島ハイキングクラブ

ほか多数



珈琲講座



素朴な集合論ゼミ



実践 心肺蘇生法



陶芸体験



水中ドローン調査計画

07

学び続ける力が
身につく
返子開成の教育

グローバル社会で求められる
礼儀、マナー、豊かな教養を身につけよう

情操教育

個として自立し、広く社会で活躍するためには、自分の考えを持ちながらも他者の気持ちを尊重することが求められます。他者との触れ合いのなかで社会性を身につけるために、礼儀やマナーを学ぶさまざまな機会を設け、豊かな情操を養っています。

■道徳教育 | 年間にわたる計画的な教育で規範意識を養う

授業のほかに、さまざまな機会を捉えて、生徒が日頃の生活態度を見直し、規範意識をもち、それを実践できるよう道徳教育を行っています。特に中1～中3では、年間にわたって道徳の授業を実施しており、講師を招いての講演会も開催します。

■朝の読書 | 毎朝10分の積み重ねが集中力を高める

朝のホームルームが始まる前の10分間は、読書の時間です。生徒たちは好きな本を用意し、集中して読書にふけります。本を読む習慣が身につくとともに、一日の始まりを落ち着いた雰囲気で見送ることができます。

■映画鑑賞 | 選りすぐりの名作から豊かな感性を磨く

徳間記念ホールの大画面で、6年間で全9回の映画鑑賞を行います。世界各国の幅広いジャンルの映画を観た後、映画の主題や表現について自分の考えを文章にまとめます。多感な時期に観た映画は一生の宝となることでしょう。

■清掃活動 | 奉仕を通じて地域社会に関心を寄せる

中1～高2では年1回、学年ごとに全員参加で校外の清掃活動を実施しています。その目的は、地域社会に貢献し、奉仕精神を発揮することで、地域社会への関心を高めていくことです。実施後は、振り返りの時間で自分たちの行った活動の意義などを考えます。

■環境教育 | 省エネルギー対策から環境について考える

豊かな自然に囲まれる返子開成では、環境問題にも積極的に取り組んでいます。環境委員会が中心となり、ゴミの分別や資源の再利用などを呼びかけています。また、生徒の発案により校内にウォーターサーバーを設置しました。多くの生徒がマイボトルを持参するなど、生徒の環境意識が高まっています。





School Facilities
海と空と青春
逗子開成で

青に

染まる思い出を作ろう

キャンパスの目の前に逗子湾、見上げれば手が届きそうな空。

青に包まれた逗子開成のキャンパスでは、開放的な学校生活が待っています。



CHECK!
VR校内ツアー



CHECK!
施設案内



メディア棟(図書館)
蔵書数は約40,000冊。座席が42用意されており、生徒の自習にも利用されています。



温水プール
25メートル・8コースある屋外の温水プールです。水温は28度まで上げることができます。

本校独自の
「海洋人間学」の拠点
① 海洋教育センター

海洋教育センターは、海のすぐ近くという恵まれた環境を最大限に利用するために設立されました。1階には、多目的ホールと2つの講義室があり、授業やクラブ活動、PTA活動などに使用します。2階は88名が一度に宿泊できる施設になっており、合宿などで生徒親睦の場となっています。地下1階は工作室。中学1年生は、ここで半年をかけてヨットを製作します。



宿泊室



大浴場



工作室



地下トンネル

映画を観る
授業もあるよ
② 徳間記念ホール



一般の劇場と同じ設備を備えた340席のホールです。映画鑑賞や講演会、学年集会などに使用されています。

高3専用の
自習室があります
③ 研修センター
(自習室)

1階には高3専用の自習室、多目的食堂があり、2階は和式宿泊室となっています。自習室は、平日でも休日でも使用することができます。



いっぱい食べて
大きくなろう
④ 食堂

どの学年の生徒も自由に利用でき、生徒の憩いの場としても活用されています。食堂入口ではパン販売も行っています。

Club Activities クラブ活動

CHECK!
クラブ活動



運動部



空手道部

中学・活動日 月・水・土
高校・活動日 月・水・木・土

松清館流の伝統的な「基本」「型」「組手」を稽古しています。



剣道部

中学・活動日 火・金・土
高校・活動日 火・木・金・土

初心者多数。剣の理法を学び、大会上位と昇段を目指します。



サッカー部

中学・活動日 月・水・土
高校・活動日 火・水・金・土

チーム貢献のために、各自の役割の自覚と昇段を目指します。



柔道部

中学・活動日 水・金・土
高校・活動日 月・水・金・土

神奈川ベスト8などを目標に短時間で集中的に練習しています。



水泳部

中学・活動日 火・木・土
高校・活動日 月・水・金・土

1908年創部。中高合わせて60名。関東・全国大会を目標にしています。



卓球部

中学・活動日 月 or 火・金・土
高校・活動日 月・水・木・土

6年間に有意義なものとなるようチームで自覚して行動します。



ダンス部

中学・活動日 月・金
高校・活動日 月・水・金

ストリートダンスやカバーダンスなどで舞台上に立ちます。



硬式テニス部

高校・活動日 班別/各班2〜3日

横三地区団体戦優勝を目標に、日々がんばっています。



バスケットボール部

中学・活動日 水・金・土
高校・活動日 月・水・金・土

基礎から学び、県大会出場を目指します。



バドミントン部

中学・活動日 月・水・土
高校・活動日 月・火・木・土

多くは中学から競技を開始。神奈川県ベスト8を目指します。



バレーボール部

中学・活動日 月・木・土
高校・活動日 月・火・木・土

文武両道をモットーに、頭と心と身体を使うバレーが目標です。



野球部(中学軟式/高校硬式)

中学・活動日 月・木・土
高校・活動日 火・水・金・土

中学・高校とも、各種大会で好成績を収めてきました。



囲碁部

中学・活動日 火・木
高校・活動日 火・木

囲碁は入門が大切。始めてしまえばゲンゲンと上達します。



インターアクト部

中学・活動日 不定期
高校・活動日 不定期

主に国際交流とボランティア活動を行うクラブです。



演劇部

中学・活動日 火・木・土
高校・活動日 火・木・土

春と秋に公演します。全国大会最優秀賞の実績もあります。



奇術部

中学・活動日 水・金
高校・活動日 水・金

開成祭や病院、幼稚園などで手品の発表会を行います。



軽音楽部 ※高1のみ入部可

高校・活動日 月・水・金

バンド練習に励み、開成祭などでライブをお披露目します。



コンピュータ部

中学・活動日 各自2日選択
高校・活動日 各自3日選択

プログラミングを習得し、ゲームソフトなどを制作します。



サブカルチャー研究部

中学・活動日 火・木
高校・活動日 火・木

ゲーム、アニメ、プラモデルなど、対象は多岐にわたります。



社会科学部

中学・活動日 月・木
高校・活動日 月・木

個人研究と共同研究を通じて、成果を発表しています。



写真部

中学・活動日 月・木
高校・活動日 月・木

撮影技術向上を目指し、コンテスト応募や展示発表を行います。



将棋部

中学・活動日 水・金
高校・活動日 水・金

部内での対局、他校との合宿が中心。関東大会、全国大会出場。



吹奏楽部

中学・活動日 水・金・土
高校・活動日 月・水・金・土

1928年創部。日本最古のスクールバンドのひとつです。



生物部

中学・活動日 月・金
高校・活動日 月・金

熱帯魚、カメ、昆虫などの飼育と研究活動を行っています。



ヨット部

中学・活動日 火・木・土
高校・活動日 平日2日+土・日

実力は全国レベル。ヨット実習のサポートも行っています。



陸上競技部

中学・活動日 火・木・土
高校・活動日 火・水・木・土

より高く、より遠くに、より速くなることを目指しています。



物理化学部

中学・活動日 水・金
高校・活動日 水・金

物理化学、自然研究、理科工作、ロボコンの4班があります。



文芸部

中学・活動日 月・火
高校・活動日 月・火

年4回の部誌発行のため、小説、詩、評論などを創作します。



和太鼓部

中学・活動日 月・木・土
高校・活動日 火・水・金・土

男子校らしい力強い演奏を目指し、日々練習に励んでいます。

School Events 年間行事

CHECK!
Instagram



年間行事予定

4月	5月	6月	7月・8月	9月
●前期始業式 ●入学式 ●新入生オリエンテーション ●対面式 ●創立記念日(4月18日) ●グローバルビレッジ[高1] ●PTA総会 ●ヨット進水式[中2] ●披露山避難訓練	●中学体育祭 ●高校体育祭 ●生徒総会 ●清掃活動[中2]	●前期中間試験[中・高] ●保護者面談[中学] ●映画鑑賞(2学年) ●アジア研究旅行[高2] ●清掃活動[高1] ●TSキャンプ[中2] ●演劇鑑賞[高1]	●遠泳実習[中3] ●映画鑑賞(2学年) ●夏期補習 ●林間学校[中1]	●前期期末試験[中・高] ●ヨット帆走実習[中3] ●映画鑑賞(2学年) ●清掃活動[中1] ●前期終業式

体育祭

生徒主体で創り上げる逗子開成の体育祭。企画から準備、当日の運営まで実行委員が中心となり、一人ひとりが役割と責任を担いながら行事を形にしています。
一競技一競技、白熱した試合と大きな歓声が会場を包み込み、圧倒的な一体感を生み出します。応援合戦も見どころで、各軍練習を重ねた個性あふれるパフォーマンスが披露されます。こうして仲間と支え合い、全力で挑む経験は、かけがえのない思い出として心に刻まれます。



生徒会

入学したらキミも生徒会の一員です

逗子開成の生徒会は、全校生徒によって構成されます。生徒の自主性を促進し、生徒同士の協力と親睦を深め、生徒による自治的諸活動(体育祭や文化祭など)や他校との交流を行い、学園生活の充実と会員相互の成長を図ることを目的としています。

〓 僕らと一緒に、明日の逗子開成に新しい風を吹かせよう! 〓
by2025年度生徒会執行部一同



10月	11月	12月・1月	2月	3月
●後期始業式 ●開成祭 ●ヨット帆走実習[中1・中2] ●清掃活動[高2] ●防災訓練	●マラソン大会[中学] ●清掃活動[中3]	●後期中間試験[中・高] ●保護者面談[中・高] ●生徒会役員選挙 ●ボート遭難の日(1月23日) ●邦楽鑑賞[中2] ●音楽鑑賞[中1]	●中学入学試験 ●マラソン大会[高1・高2] ●後期期末試験[中1～高2] ●映画鑑賞(2学年)	●高校卒業式 ●ニュージーランド研修旅行[中3] ●百人一首大会[中1] ●中学卒業式 ●後期終業式

※行事の内容や実施時期は、年度によって異なる場合があります



開成祭

開成祭も生徒主体で創り上げる行事です。
ステージ企画では、来場者の方々にも楽しんでいただけるよう、さまざまな企画を実施します。また、各部活動・学年・有志団体による展示や発表では、それぞれが日頃の活動の成果を発揮します。
2日目のファイナルでは、これまで準備してきた思いを込めて、高校2年生がパフォーマンスで締めくくります。伝統を感じさせる御輿の迫力も、大きな見どころの一つです。





SCHOOL OUTLINE

学校概要

校章「ペンと剣」

イギリスの作家ブルワー・リットン(1803～73)の「ペンは剣よりも強し」を図案化した開成中学校の校章を受け継ぎました。中央に桜花を配して「知力と体力の調和ある発達」を表現するとともに、「武力で言論を弾圧することはできない」という意味が込められています。



特別な日

逗子開成関係者にとって1月23日は特別な日です。全校生徒が体育館に集まり追悼集会を開きます。1910(明治43)年の七里ヶ浜ポート遭難事故で帰らぬ人となった12名と、1980(昭和55)年12月に起きた山岳部の八方尾根遭難事故の犠牲者6名に対して黙祷を捧げます。事故をふりかえることで、二度とこのような悲しい出来事が起こらないよう誓いを新たにします。

マスコット

逗子開成のイメージキャラクター、「ゴンズイ」です。ゴンズイは逗子湾にも生息するナマズ目の海水魚です。大人になる前に群れをなす様子はまるで学校に集う生徒たちのようですし、トゲに毒があるところはイタズラっ子的ようでもあります。



学校沿革

1903(明治36)年4月18日、私立東京開成中学校の分校として、三浦郡田越村池子(現逗子市池子)東昌寺を仮校舎に各種学校私立第二開成学校が創設されました。初代校長は田邊新之助。同年9月、小野金六氏の校地提供により、現在地に移転しました。1909(明治42)年7月には、東京開成中学校から分離独立し、私立逗子開成中学校と改称されました。中学時代は人間の一生の基礎を築く重要な時期です。都市の雑踏から離れ、自然に恵まれた環境のもとで青少年を育成するため、この逗子の地が選ばれ、本校が創設されました。



田邊新之助(1862～1944)

1903(明治36)年 4月18日	●	私立東京開成中学校の分校として 各種学校私立第二開成学校創設
1909(明治42)年 7月27日	●	東京開成中学校から独立、 私立逗子開成中学校と改称
1910(明治43)年 1月23日	●	七里ヶ浜沖でポート遭難事故
1923(大正12)年 9月1日	●	関東大震災で校舎全壊
1925(大正14)年 10月	●	校歌制定(作詞・井上司郎 作曲・弘田龍太郎)
1931(昭和 6)年 12月	●	設立者 神田鍾蔵の神田銀行破産に対処し、 学校を財団法人化(初代理事長 国分三亥)
1947(昭和22)年 4月	●	財団法人逗子開成学園と改称し、 新制逗子開成中学校設置
1948(昭和23)年 4月	●	新制逗子開成高等学校設置
1951(昭和26)年 3月	●	財団法人から学校法人へと改組
1953(昭和28)年 10月16日	●	創立50周年記念式典
1973(昭和48)年	●	公立教育の普及などに伴い 中学校入学者募集停止
1980(昭和55)年 12月26日	●	山岳部5名と顧問教員1名、 北アルプス八方尾根で遭難
1984(昭和59)年	●	徳間康快、理事長就任
1986(昭和61)年 4月	●	中学校再開(56名入学)、 中学・高校の校章を「ペンと剣と桜花」に統一
1990(平成 2)年 7月21日	●	ワシントン州シアトルのブッシュ校へ 第1回海外研修旅行
1998(平成10)年 4月	●	週5日制実施、土曜講座開設
2003(平成15)年 4月	●	高等学校入学者募集停止、 創立100周年記念式典(4月18日)
2004(平成16)年 7月4日	●	高校2年 第1回研究旅行 (国内・国外5か所から選択)
2005(平成17)年 6月	●	中学3年 第1回ニュージーランド研修旅行
2023(令和 5)年 4月18日	●	創立120周年記念式典

大学合格実績

国公立大学	2026年度入試		2025年度入試		2024年度入試	
	合計	現役	合計	現役	合計	現役
東京大学	8	7	6	4	4	3
京都大学	4	1	2	1	6	5
東京科学大学*	11	9	5	4	4	3
一橋大学	7	6	2	0	9	7
北海道大学	13	8	9	8	14	11
東北大学	7	6	9	8	4	4
名古屋大学	1	1	2	2	1	0
大阪大学	2	2	3	3	3	2
九州大学	1	1	0	0	2	2
神戸大学	0	0	0	0	1	1
筑波大学	4	3	1	1	3	3
千葉大学	2	2	8	6	3	2
横浜国立大学	9	8	11	10	18	16
横浜市立大学	5	4	2	1	4	4
東京農工大学	0	0	4	3	2	2
電気通信大学	2	2	2	0	2	1
東京外国語大学	3	3	1	1	1	1
東京海洋大学	2	2	2	1	6	4
東京都立大学	0	0	3	2	3	3
その他国公立大	36	28	30	20	24	13
合計	117	93	102	75	114	87

*東京工業大学(2024年度入試)



山形大学 医学部 医学科

栗野 朋浩さん(2025年度卒)

進路を意識し始めたのは高1の秋ごろです。校内で医学部希望者を対象にした説明会有り、それをきっかけに本格的に医学部を目指すようになりました。受験勉強は、友人と学校の自習室を利用して進めました。成績が思うように伸びない時期もありましたが、勉強している仲間の姿が励みになり、不安になることはありませんでした。進学担当の先生による面対策も力となり、本番でも落ち着いて臨むことができました。将来は、治療だけでなく患者を支える医師になることが目標です。大学では患者に寄り添う姿勢と医学の専門知識への理解を深めていきたいです。



東京大学 理科一類

秋田 道登さん(2025年度卒)

私が東京大学を志望したのは、逗子開成だったからだと思います。中学生の頃から定期試験対策にしっかり取り組み、成績が上がるにつれて自然と東大を目指すようになりました。受験勉強に本腰を入れたのは部活動を引退してからですが、両立のために定期試験ごとに学習内容を深く理解することを意識していました。また、どの先生も気さくに接してくださるので気軽に質問でき、それが成績の向上につながったと感じています。合格発表は、学校で友人と集まって見ました。同じ部活の人も駆けつけてくれて、一緒に喜んでくれました。私を支えてくれた人の多さにあらためて気づきました。



一橋大学 社会学部 社会学科

丸山 純平さん(2025年度卒)

逗子開成には個性豊かな生徒や、生徒思いの先生がたくさんいます。中高6年間で得られる生徒同士や生徒と先生のつながりは、とても深いものになります。歴史学を志すようになったきっかけは世界史の授業です。授業中に先生が話してくれたさまざまな話題に、歴史の面白さや奥深さを感じるようになりました。担任の先生には何度も勉強法の相談に乗っていただき、他の先生方からも添削やアドバイスをいただきました。逗子開成の学校生活は、一言で表すと自由です。個性を認め、応援してくれる仲間や先生と出会い、充実した6年間で過ごすことができました。

卒業生の声



ENTRANCE EXAM SUMMARY

入試情報

2027年度中学入試要項(予定)

	1次入試	2次入試	3次入試	帰国生入試
入学試験日	2月1日	2月3日	2月5日	12月26日
募集人数	150名	50名	50名	若干名
合格発表日	2月2日	2月4日	2月6日	12月26日
試験科目	4科目500点満点 (国語 9:00～(50分)150点 算数 10:05～(50分)150点 社会 11:10～(40分)100点 理科 12:05～(40分)100点)			国語 or 英語 9:00～(60分) 算数 10:00～(60分)

2026年度中学入試結果

	1次入試	2次入試	3次入試	帰国生入試
入試実施日	2月1日(日)	2月3日(火)	2月5日(木)	12月26日(金)
合格発表	2月2日(月)	2月4日(水)	2月6日(金)	12月26日(金)
募集人数	150名	50名	50名	若干名
志願者数	377名	426名	485名	45名
名目倍率	2.51倍	8.52倍	9.70倍	非公表
受験者数	364名	338名	384名	43名
合格者数	205名	82名	95名	29名
実質倍率	1.78倍	4.12倍	4.04倍	1.50倍
入学者数	126名	60名	77名	20名
合格最高点	406点	415点	401点	
合格最低点	284点	323点	297点	
合格者平均点	321.9点	344.1点	325.0点	
受験者平均点	286.9点	293.1点	266.2点	
国語	合格者最高点	131点	130点	129点
	合格者平均点	101.6点	95.0点	97.9点
	受験者平均点	92.6点	80.0点	86.0点
算数	合格者最高点	140点	134点	131点
	合格者平均点	90.6点	111.1点	93.6点
	受験者平均点	77.9点	93.4点	70.6点
社会	合格者最高点	84点	88点	87点
	合格者平均点	64.1点	66.0点	65.0点
	受験者平均点	58.2点	58.7点	56.3点
理科	合格者最高点	97点	97点	97点
	合格者平均点	65.6点	72.0点	68.4点
	受験者平均点	58.2点	61.0点	53.3点

入試Q&A

Q.教科ごとに合格基準点(足きり)はありますか？

合否は4科目の総合点で判定しますので、教科別最低合格基準点はありません。

Q.1次・2次・3次で難易度は異なりますか？

また、複数回受験をした場合、有利になることはありますか？

出願傾向や難易度はほぼ同じです。募集人数、受験者数が違いますので倍率はかなり異なりますが、目安として65%が合格最低ラインとなっています。なお、複数回受験での加算点や選考での優遇措置はありません。

Q.複数回受験をした場合に、未受験分の受験料の返金がありますか？

複数回出願し、本校に入学した場合は、合格回以降の未受験分の受験料を返金いたします。

Q.繰り上げ合格はありますか？

入学辞退等により繰り上げ合格を出す場合は、個別に電話でご連絡します。なお、1次・2次・3次の受験者が繰り上げの対象となります。

Q.入試当日の保護者の控室はありますか？

当日、控室を用意いたしますので、ご利用ください。

Q.入試当日、天候や交通機関のアクシデントがあった場合の対応について教えてください。

入試当日の対応は、本校ホームページをご覧になるか、出願時に登録したアドレスに配信されるメールをご確認ください。

Q.入試に向けての勉強のアドバイスをください。

基本的な知識を身につけて問題を読み解く「読解力」、その知識を使って考える「思考力」、考えたことを文や式、図などを用いて表す「表現力」が求められます。用語や語句は正確に書けるように、考えるときは根拠や筋道をたてて、そして問われたことに的確にわかりやすく記述する習慣をつけましょう。また、日頃から身の周りのさまざまな事柄に関心を持ちましょう。いろいろな文章を読んだり、社会の出来事や自然現象について調べたり、数や図形を使って実験したりすることで、初めて見る問題に対処できるようになり、きっと学ぶことが楽しくなるでしょう。

帰国生について

Q.帰国生は入学後のクラスはどうなりますか？

特別に帰国生だけのクラスは設けていません。また、現在のところ帰国生に対しての抜き出しの授業も行っておりません。高い英語力を活かすために、学年枠を超えた「逗子開成ESS(English Speaking Society)」の活動への参加をお勧めします。その他の教科で特別に指導が必要な場合は、個別に対応いたします。帰国生も一般入試からの入学生も隔てなく、楽しい学校生活を送っています。

Q.入学後に転勤等で海外へ行かなければならない場合は、特別措置はありますか？

あります。一旦退学の手続きを取っていただきます(休学の場合、授業料納入があるため)。帰国後に復学の意味がある場合は、帰国までの間、本校との連絡を定期的に継続していただきます。復学については、帰国後に学校長と面接を行い、海外滞在中の学習状況などを参考に総合的に判断いたします。
※原則的に海外在留期間は問いません(原則、元在籍していた学年に復学できます)

INFORMATION

時間割

～ 8:15	登校	12:15～12:55	お昼休み
8:20～ 8:30	朝の読書	12:55～13:40	5時限目
8:30～ 8:40	HR	13:50～14:35	6時限目
8:45～ 9:30	1時限目	14:45～15:30	7時限目
9:40～10:25	2時限目	15:30～	HR&清掃
10:35～11:20	3時限目	15:45～	放課後
11:30～12:15	4時限目		

土曜日について

逗子開成の土曜日は部活動、土曜講座、課外活動、探究学習など、自分がやりたいことに没頭できる時間です。体育祭やボランティア活動など学校行事が行われることもあります。

教員数および生徒数

教員数	2026年4月1日現在
専任教諭	88名
講師	18名
外国人講師	5名
司書	1名
養護教諭	2名
合計	114名

中学生徒数	2026年4月1日現在
1年生	283名(8クラス)
2年生	281名(7クラス)
3年生	285名(7クラス)
合計	849名(22クラス)

高校生徒数	2026年4月1日現在
1年生	262名(7クラス)
2年生	269名(7クラス)
3年生	262名(8クラス)
合計	793名(22クラス)



制服

制服は中高統一デザイン。ブレザー、スラックス、ネクタイ、長袖シャツ(白、青)、半袖ポロシャツ、セーターがあります。



学費・諸費用

(入学初年度にかかる費用・2026年度)

入学時の校納金	
入学金	250,000円
施設設備費	180,000円（入学時）
教材費・校外活動費	138,000円（年間）
生徒会入会金	1,000円（入学時）
生徒会費	5,400円（年間）
PTA会費	15,600円（年間）
入学時の校納金合計	590,000円

1年間の納入金	
授業料	40,000円（×12か月）
維持費	21,000円（×12か月）
1年間の納入金合計	732,000円

初年度納入金合計	1,322,000円
----------	------------

- 教材費・校外活動費は、林間学校の費用や個人用の防災頭巾ライフジャケットが含まれています。2年生以降の教材は年間約100,000円前後です。教材費は主に各教科で使用する問題集や教材、社会科見学、芸術鑑賞、宿泊行事などの費用として使用します。
- 上記の他に、中学1年生からニュージーランド研修旅行(中3)の積み立て(予定総額399,000円)があります。
- 制成品(制服・体操服・体育館シューズなど)は別途購入していただきます。
- 兄弟で在籍中の校納金減額措置として、2人目以降の中学入学金の半額125,000円と、維持費(年間252,000円)およびPTA会費(年間15,600円)は免除いたします。
- 高校進学時には、入学金(125,000円)と施設設備費(180,000円)を納めていただきます。
- 納入方法は毎月銀行引き落とし(61,000円×12か月)です。

